

オーシャン・エンデバー号での快適な洋上の旅を

アドベンチャーカナダの旅に使われる「オーシャン・エンデバー号」は、北極海などの特殊な環境下での航海を目的に作られた、北極クルーズに最適な客船です。全長137m 最大198人乗り、最新のナビゲータシステムを備え、20槽のゾディアックを装備。

船内には観察ルーム、プールやサウナ、ラウンジではニコルをはじめとする専門スタッフによるセミナーや各種プログラムなど満喫できる12日間のクルーズです。

北極ツアーに関する Q&A

① 気候——寒がりの私でも大丈夫？

北極圏でも8月は、意外にも暖かく、バフィン島やグリーンランドでも日中は18度くらいまで気温が上がります。地域により差はありますが、平均気温は6℃～10℃。夜でも太陽はほとんど沈むことがない白夜です。

② 服装と装備——どんな服を着たら良い？

あらゆる天候に対応できるような服装をご準備下さい。服は実用的でカジュアルで動きやすいものをお選び下さい。なお船のドレスコードはカジュアルです。薄めの服を重ね着するのをお勧めします。1日のうちでTシャツからダウンジャケット姿へ、そんな早変わり体験する日も珍しくありません。服装リスト 歩きやすいウオーキングシューズ。冬用の下着、靴下。厚めのシャツ、セーター、ズボン。ダウンコート。防水ジャンパーとズボン。帽子、手袋、サングラス。

③ 食事——美味しい？ 食事制限があっても大丈夫？

朝食は船内レストランにてbuffetスタイル。北の食材を美味しく頂きます。夕食はメニューから選ぶスタイルです。船内の食事は全てクルーズ代金に含まれます。食事制限のある方は事前にお知らせ頂ければ対応できます。船内にはBarもあります。

④ お部屋は？ お風呂は？ ランドリーは？

お部屋のタイプは7タイプあり、それぞれ料金が違います。各部屋にシャワーが付いています。また有料になりますが船内にはサウナ風呂もあります。また、簡単な洗濯をオーダー出来ます。お預かりから仕上がりまで24時間です。ドライクリーニングは扱っていません。

⑤ 医療——具合が悪くなったら？ 年齢制限はある？

ドクターが乗船していますので心配は要りません。慢性疾患をお持ちの方は常備薬と共に症状と治療内容を簡潔に書いたメモをご持参されることをお勧めします。昨年の参加者の最高年齢はなんと90才。80才以上の方も大勢参加されています。体力に合わせたハイキングコースが選べるなど、年齢関係なく楽しむことができます。

⑥ 船酔いする？

天候が荒れない限り北極の海は比較的穏やかです。船酔いは最初の2日間が酔い易く、その後症状は治まる傾向にあります。心配な方は酔い止めの薬をご持参下さい。

⑦ 英語ができなくても大丈夫？

お客様の3分の2は、カナダをはじめ欧米の方、そして3分の1は日本の方となる予定ですので、船内では国際交流も楽しんで頂けます。もちろんニコルをはじめ複数の日本語堪能なガイドが同乗しますので、言葉のストレスを感じることなく旅を満喫していただけます。



【ツアー参加費】

- ①+②+③=基本的にかかる費用= \$8,240US ~
- ⑤日本からの往復飛行機代+④乗船前後のホテル代=ご希望により手配します。

- ①クルーズ代金 **\$5,795US ~**
8月15日～26日12泊全食日付き
*客室のグレードによって料金が代わります
- ②北極圏環境保護寄付金 **\$250US**
*訪れる地域コミュニティや自然保護のプロジェクトに活用されるファンド費用となります。
- ③チャーターフライト(手数料、税金など込み) **\$2,195 US**
(8/15 オタワからレゾリュート、
8/26 カンゲルルスアーク〜トロントまでチャーターフライト)

以下は、ご自身で手配も可能です。

- ④乗船前後のホテル宿泊費目安 **\$400US**
(8/15 レゾリュート 8/26 トロント)
*料金は予約するタイミングとその時の空室状況で異なります。
- ⑤日本から往復飛行機代目安(運賃、諸税、手数料など含む) **約17万円**
*料金は予約するタイミングとその時の空席状況で異なります。

お勧めフライト例

8/14	AC006	羽田	17:40 → トロント	16:40
	AC462	トロント	18:10 → オタワ	19:13
8/27	AC005	トロント	13:40 → 羽田	15:35



船内のラウンジの様子

※日本からアファン財団スタッフが同行させていただく予定です。



お部屋の一例

C.W. ニコルと行く北極圏クルーズ

～このツアー体験が、北極の野生動物とアファンの森の保全に繋がります～



C.W. ニコルが自然を守る心の原点となった場所

● C.W. ニコルの解説によるカナダからグリーンランドを巡るクルーズツアー

● 巨大な氷山が浮かぶフィヨルドの海へ。

● ホッキョクグマ、アザラシ、ホッキョククジラ、イッカクなど、野生動物との遭遇のチャンスも

● 最果ての村々を訪れ、極限の自然とともに生き抜いているイヌイットの生活文化を探訪

● 極地専用の快適な客船オーシャン エンデバー号で、年配の方でも無理なく楽しめる快適なクルーズ



本ツアーの詳細な資料をお送りします。以下にお問い合わせください。

一般財団法人 C.W. ニコル・アファンの森財団 東京オフィス

〒155-0032 東京都世田谷区代沢 2-20-5 T.D.C ビル A 号 TEL: 03-6453-4192 FAX: 03-6453-4193

info@afan.or.jp www.afan.or.jp

ツアー主催会社: アドベンチャーカナダ Adventure Canada

14 Front St.S Mississauga ON, L5H 2C4, Canada Tel: 905-271-4000

info@adventurecanada.com www.adventurecanada.com

アドベンチャーカナダへ
極北の魅力 C.W. ニコル



『今、北極への扉は誰にでも開かれている』

私は少年の頃から北極の魅力に取り憑かれてしまい、行動に移したのも早く、最初の探検は少年時代の生物の教師、ピーター・ドライバー氏の助手としてカナダ北極を訪れた頃に遡る。当時、実際に足を踏み入れるまでは北極の情景というのは書物や幾つかの映画でしか想像を膨らませることが出来なかった。その様な乏しい情報源からでは、到着して実際に垣間見た壮大な景色、豊かな生態系、そして地上で最も過酷な環境下で数千年もの歴史を育んできた先住の民との出会いは全くと言っていいほど心の準備が出来ていなかった。

当時は過酷なこともあったが、私もまだ若かった。15回にも及ぶ探検の中で私たちはカヤック、カヌー、犬ぞり、スノーモービルなどを駆使して周囲を探索した。時には水上飛行機も使ったし（政府主催の探検でだが）ヘリコプターまで駆使する程だった。70代も中盤に入ってくるとこのような過酷な探検をもう一度やりたいと思うのは少々現実味がない。それはすなわち私はもう北極の大地に戻ることは出来ないということだろうか？ 全くもってそんなことはない！ 北極、壮大な景色、美しい稜線とフィヨルド、野生動物と心優しい人々は私たちが待っている。

地球温暖化によって極北の世界にも様々な変化が巻き起こっている。しかしそれ以上に大きな変化は、この最も辺境な大地への扉が今は誰にでも（若いも若きにも）開かれていることだ。

『気楽で安全で快適で何より楽しい道中』

昨年カナダ北極からグリーンランドまでの旅は私にとってノスタルジーに溢れる旅で、曾ての楽しい記憶も辛い記憶も呼び覚ましたが、道中の船内は気楽で、安全で、快適で、そして何よりも楽しかった。船内では様々なトピックに渡ってレクチャーやプレゼンテーションを専門家が提供してくれるのだが、どれも興味深く、知識に富み、そして何よりも面白い！

この半世紀、私は日本人が持つ北極への知識や興味の薄さに失望してきた。私の予想では日本人の99%はヌナヴットという地名を聞いたことも無いのだろう。しかし、人類の歴史の中で今こそ最も北極の海を安全に安心して航海し、皆様自身が北極を見て触れることが出来る時だと思う。エジプトでピラミッドが建造される前、何千年も前に太古のアジア人が、今で言うアラスカを渡り故郷とした大地を簡単に安全に垣間見に行くことが出来る。これらの人々は過酷な環境を生き抜き、今のカナダ北極とグリーンランドの広範囲に大きな文化圏を築き上げている。彼らは素晴らしい物語を教えてください。

その昔、英国海軍は何十という船と何百という男をこの海に送り込み、地球の天井で大西洋から太平洋への航路を見つけようとして多くの命を失った。生き残った人は争うことの無かったイヌイットと呼ばれる先住民の温かい優しさに包まれて生き延びた。

船乗りが訪れた後は、捕鯨船が来るようになったが、これも過去の話となり、今は鯨の数も回復してきている。雄大なホッキョククジラ、ホッキョクセミクジラ、そして海のユニコーン、イッカクを見ることが出来るかもしれない。（少なくとも僕は何度も見てきた）幾十もの国から集まった乗客と親交を深めることも決して難しくなかった。性格の悪い人や意地悪な人なんて乗っていない。

昨年は1人の老いた90歳のアメリカ人が1945～1946年に連合軍とドイツ軍がベルギー、フランス、ルクセンブルグの一部となったアルデンヌ地方で繰り広げた戦場での経験について話してくれた。こんな歴史の1ページに北極で息吹を吹き込んでくれるとは想像もしなかった。でも考えてみると北極には何時もお話し上手が集まる所でもあることを思い出した。

あなたも素敵なお話をしに行きませんか？

C.W. Nicol
2016年1月 長野県、黒姫

C.W. Nicol

荘厳な地球の鼓動を

C.W. ニコルと行く北極圏クルーズの旅

日本人にとって、遠い存在である北極。しかし、私達が放出しているCO₂による地球温暖化の影響を最も受けている地と言われています。その影響は、海水域の減少にとどまらず動植物や人間社会を含めた極めて広い範囲に及んでいます。

同じ地球に住むものとして、荘厳な地球の鼓動を肌で感じ、現状を知り、今こそ先住民のイヌイットの知恵に深く学ぶ。ニコルが日本のみなさんに体感していただきたい珠玉のツアーです。

17才から北極の自然に魅せられて15回にわたる北極探検の経験を持つC.W.ニコル。大自然のすばらしさと、厳しい自然と共に生きるイヌイットから“自然との共存”の原点を学んだ特別な場所です。そこから日本の森を再生するに至った想いを北極圏の洋上で語り合いませんか？

巨大フィヨルドの壮大な風景、ホッキョクグマ、セイウチ、ホッキョククジラ、イッカクなどの野生動物を探しながら、イヌイットの生活文化に触れていきます。この旅は、27年間に渡って北極のクルーズツアーを提供しているアドベンチャーカナダが主催。北極海などの特殊な環境下での航海を目的に造られた客船「オーシャンエンデバー号」でのクルーズは、お年よりからお子様まで安心して快適に大自然を堪能することができます。船内にはニコルをはじめとする専門スタッフによるセミナーやツアープログラムなど、満喫できる12日間のクルーズです。

また、本ツアーは、アドベンチャーカナダのご好意により、ツアー費の一部がカナダ北極の野生動物の保護活動と日本のアファンの森の保全活動に寄附されます。ぜひこの機会に、ニコルと共に生涯の思い出となる旅にでかけませんか？



Guide / Ryo Ichiji
伊知地 亮氏

10年以上前に初めて南極に行って以来、その魅力に取り憑かれ、幾度と極地ガイドとして北極、南極を案内するスペシャリスト。厳しい自然だからこそ持つ極地の美しい景色、類い稀な野生動物との出会いを日本の方々に案内することが生き甲斐。



【旅程】

1日	8月14日	羽田～トロント～オタワ	(ホテル 食事なし)
2日	8月15日	オタワからチャータ機にて クアーシトゥック (レズリュート島) 乗船	船内泊 3食付き
3日	8月16日	ビーチー島	船内泊 3食付き
4日	8月17日	イクビアリュク (アークティック湾) 5000年続くイヌイットの村	船内泊 3食付き
5日	8月18日	デボン島 無人島として世界一の広さ	船内泊 3食付き
6日	8月19日	ミティマタリク (ポンドインレット) 北極東部で最も美しい景色の村でイヌイットとの交流も可能。イッカクと遭遇するチャンスも。	船内泊 3食付き
7日	8月20日	パフィン島北東のフィヨルド地帯 壮大なフィヨルドが広がる景色を堪能	船内泊 3食付き
8日	8月21日	ニキンガニク (イザベラ湾) ホッキョククジラの貴重な餌場。遭遇のチャンスも。	船内泊 3食付き
9日	8月22日	カラットフィヨルド グリンランドで最も美しいフィヨルド。多くのアザラシが集まる。	船内泊 3食付き
10日	8月23日	ウーマナク イヌイットのルーツが発掘により解明された場所	船内泊 3食付き
11日	8月24日	イルリサット ユネスコ世界自然遺産のフィヨルドを遊覧	船内泊 3食付き
12日	8月25日	イティレク 小さな漁村を訪ねイヌイットの生活を見学	船内泊 3食付き
13日	8月26日	カンゲルルスアーにて下船 チャータ機でトロントへ	(ホテル 食事なし)
14日	8月27日	トロント～羽田	



日本のみなさんに一生の思い出となる旅を

アドベンチャーカナダより

アドベンチャーカナダは、27年間にわたって北極圏の旅行を提供しているクルーズ会社です。長年を通じて、北の民イヌイットと良好な関係を築き、その自然や野生動物に対する貴重な知識や文化を学び、船旅に活かしてきました。この経験を日本の皆様と分かち合うために昨年より日本人向けスペシャルツアーを企画しています。

2016年は、C.W.ニコル氏の活動にご賛同されているアファンの森財団の会員の皆様に対象としたスペシャルクルーズを企画しました。もちろんナビゲータは、北極探検の経験豊富なC.W.ニコル氏。そして極地ツアーガイドとして定評のある日本人ガイド伊知地亮氏が、皆様に快適で感動的な旅のお手伝いをいたします。

手つかずの大自然を全身で堪能、また小さな村々でイヌイットと交流し、息づくアートに触れ、そして穫れたての北の食材を美味しくいただく…、そんな奥深い旅を実現します。もちろん、クルーズの途中では、ホッキョクグマをはじめ、セイウチ、ホッキョククジラ、イッカクなど野生動物に出会うチャンスも豊富にあります。カメラが手放せない12日間となるでしょう。

北極圏の大自然地帯で、一生の思い出となる貴重な日々をぜひ一緒に過ごしましょう。

【航路地図】

